

俳句の会「芦火」

☆柑蘆同人誌「芦火」第745号（令和八年三月号）

- ・表紙：「桜（さくら）」
- ・晩春の季語（植物）



【子季語】

若桜、姥桜、千本桜、嶺桜、庭桜、一重桜、御所桜、楊貴妃桜、左近の桜、深山桜、里桜、緋桜、上溝桜、南殿、大島桜、染井吉野、桜月夜、桜の園、桜山

【関連季語】

花、山桜、初桜

【解説】桜は花の中の花。古来より詩歌に歌われ、日本人に愛されてきた花である。

もともとは、山野に自生する野生種であったが、江戸末期から明治にかけて、栽培種である染井吉野が誕生し、現在では、桜といえば染井吉野をさす。

桜は神話の時代から、春を代表する花であったが、一時、中国から伝わった梅に、その地位を奪われる。『万葉集』集中の歌でも、梅の歌は桜の二倍以上になる。

桜が梅に替わって、再び春を代表する花となったのは平安時代で、『古今集』では多くの桜の歌が見られるようになる。紫宸殿の「左近の桜」も最初は梅であったが、梅が枯れた後は桜に植えかえられた。

【桜（さくら）を詠った有名俳人の句】

- ・さまざまの事思ひ出すさくらかな／芭蕉
- ・命二つの中に生きてる桜哉／芭蕉
- ・木（こ）のもとに汁も膾も桜かな／芭蕉
- ・声よくばうたはうものをさくら散／芭蕉
- ・花に遠く桜に近しよしの川／蕪村
- ・木の下が蹄のかぜや散さくら／蕪村
- ・桜咲きさくら散りつつ我老いぬ／關更
- ・観音の大悲の桜咲きにけり／正岡子規
- ・風に落つ楊貴妃桜房のまま／杉田久女
- ・夜桜やうら若き月本郷に／石田波郷
- ・さくら咲きあふれて海へ雄物川／森澄雄
- ・天地をわが宿にして桜かな／長谷川權
- ・大釜に飯炊きあがる桜かな／高田正子

☆高得点者および高得点句

*前月の清記表に記載された10名の50句のなかから互選の結果、以下の同人が高得点者となりました。併せて高得点句、並びに特選句も掲載します。

(特選句：50句の中で特によかったと思った句を各人が一句選びます)

<高得点者（敬称略）>

13点 温州、11点 穂心、10点 碧亥

<高得点句（4点以上）>

- ・捨つるもの捨てきれぬまま年用意／勝・・・・・・・・6点
- ・寒晴れや白き天守のなほ白き／温州・・・・・・・・6点
- ・響き合ふ遠近の鐘去年今年／碧亥・・・・・・・・6点
- ・ローカル線田んぼ横切る初電車／温州・・・・・・・・4点
- ・熱爛や虚々実々のまついりごと／甲舟・・・・・・・・4点

<特選句>

- ・捨つるもの捨てきれぬまま年用意／勝・・・・・・・・2名の選
(選評)・物不足の時代に育った私も同様に、使える物は勿体ないと捨て切れない心情良く解ります。
・後を引き継ぐ子供のことを考えると申し訳ないが、自分が生きているうちは置いておきたいものが沢山あり、なかなか捨てられないものばかり。
- ・寒晴れや白き天守のなほ白き／温州・・・・・・・・2名の選
(選評)・白鷺城であろうか、冬空に毅然として立つ姿に、人間もこうありたいと思います。
・寒晴れの持つ清涼感、他に視野を邪魔するもののない姫路城の天守閣の白さが際立ちます。
- ・タワマンの茜射す窓初景色／穂心・・・・・・・・1名の選
(選評)・タワーマンションからの初景色はさぞや雄大で素晴らしいものと想像いたします。現代的な初景色の発見です。

- ・響き合ふ遠近の鐘去年今年／碧亥・・・・・・・・・・1名の選
(選評)・確かに、年末には遠近(おちこち)の寺院から除夜の鐘が聞こえてきます。この句では遠近という措辞が効いているのと、虚子の句「去年今年貫く棒の如きもの」を彷彿させるのが良いですね。
- ・大寒の朝陽に揺れる鳥の影／穂心・・・・・・・・・・1名の選
(選評)・よく大寒が描けている。1月17日大寒の厳しい寒気の中に生まれた私は、この景色がよく分かる。
- ・一切の視界モノクロ雪の宿／恵吾・・・・・・・・・・1名の選
(選評)・寒々とした情景が目には浮かびます。「一切の」と言い切った点が見事です。
- ・ローカル線田んぼ横切る初電車／温州・・・・・・・・・・1名の選
(選評)・拙宅の辺り、まさにこの情景。代作してもらっているような気分です。

☆次月兼題

◎「春の鹿」もしくは「桜」

*日本の花と言えば「桜」あなただけの桜を詠んでください。

<有名俳人の句>

- ・さまざまなこと思ひ出す桜かな／芭蕉
- ・夕桜家ある人はとくかへる／一茶
- ・満開の触れて冷たき桜の木／森 澄雄

*春になると牡鹿は角が抜け落ち雌鹿も脱毛して毛艶が悪くなる。

秋の鹿に比べ哀れさを憶える。出産のシーズンである。

<有名俳人の句>

- ・春の鹿こちらを向いて座りけり／小笠原和夫
- ・紅き星高きにありぬ春の鹿／永島靖子

☆その他のトピックス

1. 今月号の清記

◎今月は9名の方が合計45句を出句されました。

2. 近況報告

◎同人各位より近況報告です。

- ・勝様、碧亥様、六甲様、要様、穂心様より頂いています。

◎要様が2月1日付け「朝日俳壇」で入選された由。

【真夜覚めて書き継ぐ稿や隙間風 大串 章 選】

要様、おめでとうございます。

◎温州より「芦火」を継続発刊するために(提案その③)を掲載させて頂きました。

- ・近々「柑芦会公式フェイスブック」で約900人の登録者対象に「芦火」の紹介をさせて頂くことをご案内しました。

◎修平様よりフェイスブックを経由して「柑芦会川柳サークル」を立ち上げ運営していることを先月号に引き続きご紹介頂きました。

「芦火」も川柳サークルでの取り組みを参考にさせて頂き、「芦火」の継続発刊・発展を目指したと思います。

<俳句の会「芦火」概要>

- ・会員は柑芦会会員
- ・現在の会員は大学3期卒から25期卒の11名
- ・昭和38年（1963年）結成・・・約60年の歴史
- ・会員の作句は通信俳句誌「柑蘆同人誌・芦火」に掲載され毎月各人に配付
- ・創刊以降毎月発刊。令和4年（2022年）6月に第700号発刊。
- ・50号ごとに句誌を発刊。令和4年5月に「芦火第14号句集」発刊
- ・創刊時からの延べ会員数、72名（高商32名、高商教授1名、大学39名）

<編集者・コンタクト先および会費>

- ・編集者：穂永 千秋（大学17期）（俳号：穂心）
メルアド：suishin2010@dream.ocn.ne.jp／携帯：090-9887-2513
- ・その他のコンタクト先：
 - ・山下 勝（大学14期・前編集者）（俳号：勝）
メルアド：yama723@nifty.com／携帯：090-1349-6727
 - ・平林 義康（大学20期）（俳号：温州）
メルアド：hirabayashi9497@yahoo.co.jp／携帯：090-8525-7293
- ・会費：年会費1万2千円

以上
(文責：平林 温州)